

## 平成 29 年度佐潟再生事業(案)について

### 1 概要

佐潟周辺自然環境保全計画に基づき、富栄養化している佐潟の水質改善を図るため、様々な方法を検討し、人の手を加えながら佐潟の再生を目指す。

### 2 経緯

#### (1) 浚渫事業

- 平成 26、27 年度の 2 カ年において延長 340m（幅 6m、深さ約 1m）、2,050 m<sup>3</sup> の底泥を浚渫し除去。（浚渫面積 2,040 m<sup>2</sup> ÷ 佐潟全体面積 436,000 m<sup>2</sup> = 0.47%）
- 浚渫土壌からは希少植物の発芽が見られ、生物多様性の回復が期待される一方、浚渫実施後の水質調査のデータに関しては、大きな変化に至っていない。

#### (2) ヨシ刈り・「ど」の再生

- 平成 19 年度からヨシ刈りを実施
- 平成 27 年度からはヨシ刈りの面積を拡大し約 2 ha を刈り取ったほか、「ど」（水路）の復元などを実施

#### (3) 水門のドロばき活用の検討

- 水門に付随するドロばきの開門試験を 2 回実施し、ドロばきを全開にした前後で、懸濁物質や有機物を含んだ湖水がどの程度排水されるか計測した。
- ドロばきを開門しただけでは水質の変化は見られなかったものの、水門付近の上流部の湖底を攪拌することで変化が見られた。

### 3 平成 29 年度の事業計画

#### (1) ヨシ刈り・「ど」の再生等公園内の整備

- ①ヨシ刈りは昨年度に引き続き約 2ha の面積の刈り取りを予定。「ど」に関しては浅くなった箇所を中心に整備を行う。
- ②平成 28 年度に引き続き、ヨシ刈り地に隣接する杉林の除伐・下草刈りを予定
- ③赤塚小学校で活用する学校田を佐潟公園内のヨシ刈り地に創出する。
- ④下潟東側のヨシ帯一部を重機で抜根し、多様な動植物が生息・生育できる空間（ビオトープ）の創出を検討（予算の執行状況を踏まえながら事業を実施）



図. 平成 29 年度佐潟再生事業の各実施箇所

## (2) 水門のドロばきの活用

○地元関係者と相談しながら冬期間を中心にドロばきを定期的に開門する。

## (3) 学習会・ワークショップの開催

○佐潟の現在の問題点や、将来の佐潟がどうあるべきかといったテーマについて地元の方々や関係団体と連携しながら佐潟に関する学習会、ワークショップを開催し、地元の方々と佐潟の現状や問題点を共有する。

○参加者と共に佐潟の理想像を検討し、目標に向けた佐潟の長期的な計画の立案を行い、平成 30 年度の計画改訂に反映させる。

○立案した計画案は、次回協議会の議題で報告する。

表. 学習会・ワークショップのスケジュール案

| 項目             | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------------|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 学習会・ワークショップの開催 | →  |     |     |     |    |    |    |
| 計画の取りまとめ       |    | →   |     |     |    |    | ○  |